

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3071300630
法人名	社会福祉法人愛光園
事業所名	愛光園第2グループホーム
所在地	和歌山県伊都郡かつらぎ町佐野1386 (電話) 0736-22-3010

評価機関名	NPO法人認知症の人と家族の会		
所在地	和歌山市四番丁52ハラダビル2階		
訪問調査日	平成19年6月27日	評価確定日	平成19年8月5日

【情報提供票より】(平成19年6月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年 12月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18人
職員数	14人 常勤 14人, 非常勤 0人, 常勤換算 12.6人

(2) 建物概要

建物構造	耐火構造造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,600 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷金	有(円) 〇 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 〇 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		780円	

(4) 利用者の概要(6月12日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	2名	要介護2	5名		
要介護3	7名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	名		
年齢	平均 81.2歳	最低	70歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	上田内科、上田神経科クリニック、かつらぎ町歯科医師会
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

駅から徒歩5分で国道にも近く、街中にありながら自然に囲まれていて、入居者が心身ともに穏やかに過ごせる環境である。同一法人の2番目のグループホームで、これまでの経験を活かしたより質の高いホーム作りを職員一同がめざしている。和風の住居はゆったりと落ち着いた雰囲気、居室前の軒や格子戸は”私の家”というコンセプトで造られている。職員に見守られながら、入居者は自分のペースで安心できる生活を楽しむことができている。同敷地内に併設されているデイサービスの行事への参加も行われている。法人代表者は医師であり認知症への理解が深く適切な対応が期待できる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回は第1回の外部評価である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価に対する取り組みは今後期待される。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、町役場介護保険課職員・町役場福祉課職員・地域包括支援センター・地区民生委員・家族の代表らの参加で行われたが、事業報告程度の内容であり、開設以来1度の開催にとどまっている。今後、運営推進会議を活用し、地域密着型の基本理念である地域との連携を進めていくことが望まれる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の意見や苦情に対して適正委員会のパンフレットや意見箱の設置により、対応できるよう用意されている。必要に応じて電話連絡をおこなうほか、面会時には日常の様子を報告、家族の意見を聞けるように話し合いの場が持たれている。また、家族へグループホーム便りを送る取り組みも始めている。今後、家族会を設置するなどして運営に反映できるような取り組みが期待される。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の祭りに参加している。入居者との散歩や、買い物で地域の人とかかわりを持つようになっている。自治会への参加はまだ積極的に行っていないので今後、清掃活動から取り組む計画を立てていることなど、積極的な関わり方を模索している。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を見直し、地域密着型サービスとしての理念をわかりやすく表して、玄関に張り出している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員のミーティングや、話の中で共有できるよう働きかけているが、浸透するまでに至っていない。	○	理念の共有から、更に意識づけを強め職員の日々の具体的なケアへとつなげてほしい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りに参加したり、入居者との近所への散歩・買い物などで地域の人とのふれあいにつとめている。また、ホーム便りを手渡しして、理解してもらえよう努力している。自治会へは参加していない。	○	自治会への参加は、地域で暮らす基盤づくりととらえ努力してほしい。事業所の夏祭りへのお誘いなど、地域との交流に事業所から働きかける双方向の取り組みも期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員で自己評価の作成をし、その意義を理解している。評価作業をサービス改善につなげる話し合いも行われている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーは、町役場介護保険課職員・町役場福祉課職員・地域包括支援センター・地区民生委員・家族の代表が参加しているが、開設以来1度の開催にとどまっている。今後に向けて模索中である。	○	地域密着型サービスの事業所として、地域の幅広い意見を求めることが今後のサービス向上につながると思われる。事業所からの積極的な働きかけと意気込みがメンバーの参加意欲につながると期待されるので、成果を早急に求めるのではなく、まずは集まって話をするというところから始めてもよいのではないかな。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	時折、町役場の福祉課・介護保険課の担当者が立ち寄ってくれる。事業所から行くことは少ない。	○	日々の交流から考え方や事業所の実態を把握してもらうことが認知症の理解や支援につながると期待される。事業所からの積極的な働きかけが望ましい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族に対しては、面会時に日常の様子を報告し、話し合いを持っている。緊急時や連絡事項のある時は電話連絡も行っている。個々の家族には「便り」を送る取り組みも始めている。	○	「グループホームだより」を送る取り組みがなされているが、お花見などイベントのお知らせ・お誘いのときだけではなく定期的に情報を提供してほしい。入居者の様子を知ることによって家族からの意見が出やすくなり、よりよいサービスにつながると思われる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置し、運営適正委員会のパンフレットを置いている。	○	ご意見箱への投函はまだ1件もない。事業所に直接話しができていたとしてもいいが、今後「家族会」の設置や集まりで意見・苦情を表せる機会を設けて行くことが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同一法人内の移動はあるが、入居者にダメージを与えないように 最小限の異動ですむよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	適宜、研修会に参加、法人の研修にも参加しているが、公休扱いではない。	○	公休扱いで受講できれば、職員の意欲・チャンスも増えて、全員のスキルアップにつながると思われる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加し勉強会や交流を行っている。他グループホームの職員と職場の交代を行い、その経験をケアの実践に生かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設を見学してもらい、その場での話し合いで不安をなくす努力をしている。入居後も、本人のペースに合わせてじっくり・ゆっくり接するようつとめている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の得意なこと(三味線・茶道 等)を教えてもらっている。食事の支度・後片付け・洗濯物をたたむなど生活を共にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用している。日常の対話から意向を知るよう努め、日々の変化に対応できるように各職員がしっかり観察している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者と職員のミーティングや、話の中で共有できるよう働きかけている。カンファレンスノートを作っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年に1回の計画の見直し時だけでなく、家族・入居者の意向や希望の情報収集とカンファレンスノートを活用して、1ヶ月2回のミーティングを行い職員間で共有し、その都度話し合っケアにつなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	他の事業所や、医療機関との連携をとる体制で、現在は入居者の外出・外泊や通院の支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携をとっている医療機関を中心に定期健診から専門医につなげるようにしている。また、本人の今迄通っていたなじみの 医療機関への通院も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期・重度化の対応について指針をまとめ、家族に説明している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ひとりひとりに配慮した言葉かけや対応をしている。介助は、他の人の目に付かないようにさりげなく行われている。個人の記録は、施錠して管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で塗り絵をする人、習字を書く人、居間でくつろぐ人などなど、個々の生活パターンを把握し、本人の希望を尊重し希望に沿うよう支援している。入居者は穏やかでよい顔をされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の体重管理で、献立作りの重要性を感じ勉強している。調理・盛り付け・後片付けを入居者で行い、職員も同じテーブルで食事を楽しんでいる。男性の入居者も孤立することなく一緒に働いていて、ほほえましい。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望があれば毎日入浴できる。ただ職員体制のため、時間帯が決まっている。	○	入浴は、これまでの生活習慣や好みで多様性がある。日々の楽しみの一つでもあるので、入居者の希望に添った支援のため可能性をさぐってほしい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時に家族から生活歴を聞いている。またセンター方式を利用し活かしている。ボランティアできてくれる先生のもと書道をしたり、塗り絵が好きな人は塗り絵をし、隣接地では畑を作って希望者に手伝ってもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物に出かけている。希望があれば随時外出している。	○	近くへの散歩だけではなく、入居者の楽しみや気分転換として外食の機会などもつくってほしい。職員や入居者が地域に溶け込むチャンスでもあると思われる。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	正面入り口は外からは入れるが、目の行き届かないときはロックしている。2階のベランダは鍵をあけてあり出入り自由になっている。	○	入居者の安全を重視する余り現在は鍵をかけているが、入居者の気持ちや地域の人々から見た印象などをも考慮に入れて、管理者、職員の工夫・努力に期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署より防火避難訓練を受けている。火災および煙の感知機を各所に付けている。2階で感知したのも1階に同時に報知されすぐに消防署に通報できるシステムになっている。	○	避難訓練時、入居者の個々の状態も考慮に入れて実施するのが良いのではないかと。また、消防署だけではなく、いざというとき地域の協力も必要となるので、日ごろから住民との連携を深めておくことが求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士と連絡をとっている。水分量は個々にチェック表に記録し、少ない場合は随時摂取してもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな窓から山畑が一望でき、季節の移り変わりを満喫できる。随所に格子を用いた日本家屋風の落ち着いた雰囲気、使いやすいオープンキッチンからは生活が感じられる。畳とソファの両方を備えた広い居間は、めいめいがくつろげる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の使い慣れたもの、愛用のもの(ソファ)、必要なもの(仏壇)を持ってきている。居室の入り口は格子戸にひさしがあり、個人の家という趣にしている。		